

お城の内堀めぐりを楽しんで、色々学んだ後、いよいよ城下町散策となりました。

重要文化財の岡口門から、武家屋敷長屋門に至りました。

この武家屋敷の旧大村家住宅は、江戸時代末期の建設で、元は、今の東坂ノ上丁に構えられていました。大村家は禄高 800 石程度の中級藩士で、家紋は桔梗の紋です。

桁行 12 間×梁間 2 間半、入母屋造本瓦葺で、海鼠壁の外壁等、武家屋敷らしい重厚な外観となっています。屋根瓦には桔梗の家紋があります。

一旦、堀止東に移築され、近年まで住居として使用されていましたが、市内に唯一残る、武家屋敷長屋門であり、貴重な文化財である為、当地に移築され、展示公開されています。(現地説明看板から転記)建物内部はゆっくり見学出来ました。質素な造作となっており、江戸時代の武士家族の生活を彷彿とさせました。

次に、黒川紀章氏設計の、和歌山県立近代美術館の外観見学となりました。「おたま」でえぐったようなドーム状のフロアーに、最近解体された中銀カプセルタワーのカプセルが一個展示されていました。建物は、空に向かって翼を広げたような大胆な外観デザインが際立っています。又、グレーの金属色が落ち着いた印象でした。

交差点に建つ「馬上の吉宗公の像」を見て、大手門北側の本町通に向かいました。

京橋に立つと、本町通は、無電柱化されていて、伝建地区のような雰囲気がしました。

紀陽銀行本店の外観の説明を受けた後、お菓子の老舗「駿河屋」の店舗の前で紀州藩御用達の歴史をうかがいました。皆さんお土産にたくさん買われていました。

次に向かった、お城の外堀「市堀川」にかかる中橋は、東海道の鉄橋を橋として、再利用された歴史的な建造物です。この橋を通して天守閣が見渡せる、絶景のビューポイントです。

市堀川の北側の細い川端を潜り抜けて、最後に向かったのが、登録有形文化財の「和歌山県建築士会館」です。「建築士」にも紹介記事の掲載があったので皆さんご存知ですが、「市堀川」にかかる城北橋北詰東側に接して北面して建ちます。RC 造地下 1 階地上 3 階建の、戦後モダニズムオフィスビルの一つの典型的な姿で、川岸に建設された昭和 40 年代の歴史を伝える、都市景観上の要となっていると紹介されています。

これで、城下町散策 (3 時間 30 分・1 万歩) のエクスカージョンは終了して、解散となりました。

多くの和歌山県建築士会の皆さんに、随行説明をしていただいたことにお礼申し上げます。

懐かしいあの和歌山言葉を堪能できなかったのは心残りとなりました。

帰途に立ち寄った会場の和歌山城ホールで、和歌山県建築士会の皆さんの解散式を拝見して、若い力に感銘しました。

会場前から、バスで JR 和歌山駅に向かう途中、ケヤキ大通りの街路樹が一斉に電飾点灯し、近畿建築祭・和歌山大会の、見事なフィナーレとなりました。

【情報・広報委員 鈴木 茂】

近畿建築祭・和歌山大会エクスカーション②

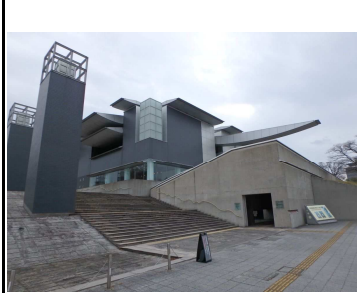
岡口門では櫓の内部を特別見学 和歌山県建築士会の先導



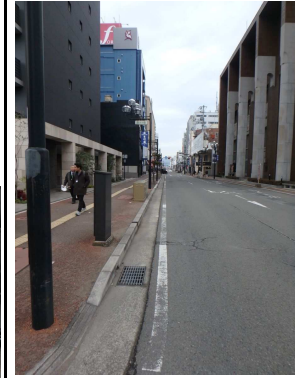
唯一の武家屋敷長屋門 本瓦葺、海鼠壁



黒川紀章氏設計の和歌山県立近代美術館 中銀カプセル展示



本町通は無電柱化されている



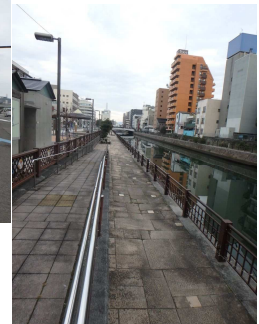
紀陽銀行本店外観

駿河屋外観



和歌山県建築士会館外観

市堀川(元の外堀)



撮影日 令和6年1月20日